

PC等の支援者一人1台を実現し 記録の電子化及び計画書作成の効率化

課題

事業所内にて使用できるPC端末が少なく、計画書等の作成を行う場合に、支援者間で共有してPCを使っている状況である。

また、支援記録は手書きで行われており、それを共有する場合も記録票の保管場所までの移動が必要となり、現場から離れなければならない。



ICT機器 導入

PC導入10台
支援記録ソフト導入
施設全体を網羅する
wi-fi環境

成果

社会福祉法人 濱友会
自立支援センターひまわりの里
（就労B、生活介護、放デイ【多機能型】）

成果（概要）について、

【業務の質の向上】

- ・ソフト導入の端末から記録について確認、出力ができるようになり、どの支援者からも利用者の記録を確認できるようになった。
- ・申し送りについて、ソフトを使用することができ、申し送りのミスが少なくなった。

【量的な効率化】

- ・PCの使用が各支援者ごとにできるようになり、計画書等の作成時間が短縮できた。

業務効率化のステップ

①導入前の検討状況

導入前は8台のPCを各事業で使用しており、端末を使用した作業は交代をしながら取り組んでいた。記録のソフトを導入し全支援者が記録に同時刻関わる為には、端末の増設は必須であるということに至る。また、パートさんが扱いやすいような端末も導入できないかという検討もした。

②導入内容（詳細）

導入後は10台のPCと4台のタブレット端末を新規で準備し、記録のソフトを導入した。記録ソフトを施設全体で使用し、共有できるようにサーバー機の導入を行い、施設全体に無線環境を増設した。

③導入における問題点の洗い出し・それに伴う改善など

端末の使用自体が慣れない支援者が多く、端末の使い方、ソフトの使い方等の手順書の作成を行い実施した。また、ソフト使用のための講習を時間を設定して実施することができている。

職員の声など

【良かった点】

- ・紙媒体を使用しないために、一斉に記録をすることができるようになった。
- ・過去の記録確認がしやすくなった。
- ・入力の修正等がしやすく、記録に時間がかかりにくくなった。

【悪かった点】

- ・パソコン自体に抵抗があります。
- ・便利なソフトとは思いますが、操作を覚えるのに苦労しています。

【今後の課題・その他】

- ・整備した環境が有効に活用できるよう、端末使用の講習等を継続して行っていく必要がある。
- ・ソフト会社との相談の下で、導入した記録ソフトと既存の請求ソフトの連携を行い、月の実績が記録入力にて反映されるようにした。記録と実績の連携で現場でのさらなる事務作業軽減につながると考えている。
- ・今後は別拠点にある施設との連動を検討し、法人全体をサーバー機にて管理できるように検討していきたい。



ソフト使用のための講習会の模様